

1 学校教育目標
創立以来101年となる伝統と歴史を継承しつつ、「21世紀を逞しく生き抜くとともに、郷土と自然を愛し、地域社会に貢献できる心情豊かな人間の育成」を目標とする。そのために、「知・徳・体を高めることによって、より高い人格の形成とこれからの社会の変化に対応できる資質の育成」をめざす。

2 学校経営ビジョン
教職員と生徒が一体となり、「知行合一」を実践モットーとして教育活動に努める。 (知行合一：知識と行動は別のものではなく、知識と行動が合わさって一つ。) 社会規範意識、人権尊重、敬愛共同の精神の涵養に努める。(徳の育成) 部活動等加入率を限りなく100パーセントに近づけて、心身の健康を促進するとともに社会性・協調性の涵養に努める。(体の育成) 進路希望実現を限りなく100パーセントに近づけるために、学力の向上とともに個性の伸長に努める。(知の育成)

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識・人権尊重・敬愛共同精神の涵養のために、モラル・マナーを守り、ボランティア活動等に励む生徒の育成に積極的に取り組む。 ・県レベルの大会等における部活動等優勝旗7本以上をめざして、日頃の教育活動に積極的に取り組む。 ・国公立大学55名以上、福岡周辺の私立大学合格者111名以上をめざして、日頃の教育活動に取り組む。 ・SELHi(セルハイ)研究発表会の成功とその成果を進路実績で表すために、日頃の教育活動に積極的に取り組む。 	<p>全職員の共通理解のもと十分な取組ができ、重点目標はほぼ達成されたが、各数値目標の達成状況に格差が見られた。今年度は各数値目標について大きく見直すべき時期に来ていると考えられる。</p>

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標のうち、数値目標(大学合格者・部活動の優勝旗)を知っている保護者の割合を70%以上にする。	・振興会総会、「唐津西高だより」ホームページの学校長挨拶、学校案内展示、三者面談等を通して周知を図る。
	教職員の資質向上	大学入試に対応した授業の研究	・大学受験指導に向けた教科・科目ごとの指導法研究会を年1回以上実施する。	・各教科ごとに指導法研究会の実施計画を作成する。 ・大学入試の過去問の蔵書を充実させ、全教職員が入試問題に触れる機会を設ける。
	開かれた学校づくり	体験入学の充実	・体験入学のアンケートで「参考になった」「大変参考になった」と回答する生徒の割合を90%以上にする。	・体験授業の実施方法を改善し、部活動見学も十分にできるような日程を計画する。 ・部活動の見学者にその部の魅力を十分に伝えられるような取組を行う。
	学校事務	経費の削減と予算の適正運用	・電気(空調を除く)の使用量を前年比3%削減する。	・下校時や教室不在時及び昼休みの消灯に全校を挙げて取り組む。 ・渡り廊下に前年度と比較したグラフを掲示し、生徒・職員に対する意識付けを行う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	学力向上	教科指導の充実	・県下一斉模試の県下順位 1500 番以内の数を 1 年 35 名、2 年 40 名、3 年 60 名にする。	・成績分析会・進路検討会を行い、各学年・各教科での指導方法を各学期ごとに確認する。 ・各教科ごとに小テスト・課題等を工夫し、学習習慣の定着を図り課題の提出率を向上させ、基礎学力を身につけさせる。
	進路指導	進学意識の向上	・大学進学希望者数の割合を全校生徒の 80 % 以上に、うち 3 年生は卒業時点で 75 % 以上にする。 ・進路希望調査での未定者の人数を、3 年生は 1 学期、2 年生は 2 学期、1 年生は学年末までに 0 にする。 ・保護者が「本校は進学を目指す学校である。」と認識する割合を 70 % 以上にする。	・総合的な学習の時間での取り組みを改善したり、新規事業を実施して、生徒の意識を向上させる。 ・進路のしおりの編集に工夫を加え、生徒が実際に活用する場面をつくる。 ・保護者を対象にした講演会、ガイダンスを実施し、進学意識の啓発を図る。 ・進路未定者に対する継続的な個別指導を実施する。
		進路希望の達成と大学進学率の向上	・国公立大学 55 名以上、福岡周辺の私立大学 111 名以上の合格を達成する。 ・3 年生の進路未定者の数を 0 にする。	・成績分析会、進路検討会を実施して生徒の現状を把握し、指導方法を工夫する。そのために、会議の準備と進め方に改善を加える。 ・学年・教科と連携して、放課後及び長期休業中の特課や休日セミナーを効果的に運用する。 ・生徒が希望するすべての進路に対応した指導の場を設定する。
	生徒指導	交通安全教育	・生徒の交通事故を無くす。	・交通安全講話を実施し、交通安全に対する意識の高揚を図る。 ・自転車安全点検を実施し、自転車の整備を確実にに行わせる。
	健康・体づくり	基本的生活習慣の確立	・生徒の年間出席数を 98.5 % 以上にし、延べ遅刻者数を 2000 名以内にす。	・遅刻者に対して、徹底した指導を行う。 ・学年主任を柱に欠席、遅刻者の把握をし、早期対応を行う。
		心と体の自己管理	・各科検診後の受診率を昨年度の 2 倍にする。	・学校医と連携を深め、受診勧告及び啓発週間を充実させる。
	保健指導	環境美化の推進	・全校生徒のマイゴミ袋持参の割合を 80 % 以上にす。	・環境美化委員によるポスター作成を行う。また、毎学期掃除週間を設定して、環境美化の意識の高揚を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	心の教育	マナー、モラル、規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生にふさわしい服装や頭髪をさせる。 ・あいさつが盛んな学校にする。 ・正しい入室の仕方など適切な礼儀作法ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・每学期当初に服装頭髪検査、6月と11月に服装指導週間を設定し、服装に対する意識を高めさせる。 ・登校・巡回指導において、制服の正しい着用の指導をする。 ・生徒指導部による朝の挨拶の呼びかけを実施する。 ・朝の挨拶運動を実施し、振興会地区役員の協力を得ながら現状把握・改善に努める。
		校内外におけるボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全校単位、学年単位のボランティアを実施する。 ・各クラス及び各部活動単位でボランティア活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画の中に位置づけて実施する。 ・学年ごとに実施計画を作成し、内容、場所等について、充実したものになるよう検討する。 ・各部の活動計画を生徒会で取りまとめ、年間を通した活動を可能とする。
	図書館利用	図書館の利用と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者数を前年度比1.5倍にする。 ・図書館蔵書平均貸出冊数を前年度比1.3倍にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の広報活動を工夫する。 ・図書委員会を活性化させ、その成果を各クラスに還元させる。 ・図書館支援スタッフを活用する。 ・書架の配置を工夫する。 ・図書館行事を充実させる。
	部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の部活動入部率を限りなく100%に近づける。 ・部活動加入者が率先して学校生活の各場面において全体をリードしていく雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介を実施し、部活動加入を意識させる。 ・部編成会を2回実施し、未加入者に部活動加入を勧める。
特定課題	SELHi 研究開発	4技能の英語運用力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・実用英語技能検定の合格者を2級で20名、準2級で80名にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学外履修による単位を認め生徒の英検に対する意識を高める。 ・生徒の英語学習の取り組みについて、英検を意識した4技能のバランスのとれた指導を行う。 ・英検受検生徒への受検指導・面接指導を行う。
		英語の授業における内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語」の授業の70%、「英語」の授業の80%を英語を使用して授業する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科の教職員に対し、指導法講習会を実施する。 ・学外への公開研究授業を行い、指導法の向上を図る。

は共通評価項目、 は独自評価項目